

沢講習報告

【講習日】 7月3日 / 【講習場所】 丹沢 小川谷廊下

【参加者】 CL 渡邊三 SL 上茂・辻本 / 「講習対象者」 藤 杉山 樋口 渡辺理 井上 堀内

【遡行報告】 今回は、リーダー高梨さんが故障で急遽渡邊三さんにバトンタッチ。フォローが2名。
講習者6名のうち、まったくの沢初参加1名でした。

小川谷林道は通行可能で、やはりこの蒸し暑さと人気の高さでもう車は奥まで入れず、手前の広いスペースに4台置く。ベストな広場だ。いつできたのか？総勢18名、9名のベテランメンバーには先に自由に行ってもらおう。

駐車場から少し林道を戻ると赤テープが示す降り口があるというが、赤テープはない。しかしすぐ降り口はわかった。川原に降り遡行開始。

初級登攀の沢講習会ということで特にマニュアルはありませんが、シャワークライミングの楽しさを体で感じていただくのも講習の目的。
最初の関門チョックストーンの滝は、立てかけてある木を足場にして残置シュリングに足を入れ体を上げる。乗っこせなかったらお助けで引っ張りあげる。みんなで助け合いながら登らせるのも沢のやり方。沢はチームワークです。

次は釜に入って左の斜面を上がるか、目の前の壁を登るかですが、壁に取り付く。

ザイルを **Fix** してロープマンかプルージックで登ってもらう。ロープマンはカラビナとの相性があり、角張ったカラビナだとかなり動きが悪かったので気をつけたい。

またプルージックはあまり細いと締まりすぎます。
CLにどんどんザイルを張ってもらい、スムーズにいくかなと思いきや、小川谷ほそうは行かない。ゴルジュでは水に押し流され、手がかりの乏しい岩では何度も落ちる。
不安だったのは、基本的なザイルワークや、登攀中の



さあ、小川谷で遊ぼう！



F1の登攀



残置シュリングを使ってCSを登る

ザイルの架け替え、人に頼らずにする自己ビレイの取り方など。沢へ積極的に参加し、経験を重ねて行ってほしい。講習側も3人では少々きつかった。CLのすばらしい安全管理のもと不安はなかったが、フォローが行き届かない。もう一人増やすべきだった。

いろいろな思いはあるが、久しぶりに来た小川谷は変わらずに美しい！楽しい！

丹沢にしては崩壊も少ない。水が多いから？岩の間を走り流れる水の力は、常に岩を磨き、すべすべの花崗岩。きらめく水と緑とのコントラストが美しい。ゴルジュはそんなに厳しくもなく、本当に楽しめる。水量にもよるでしょうがね。

名物の大岩は、ゴボウ登りをしてもらおう。苔のついた滑っぽい岩に足裏全体を押し付けて登る。懸垂と同じように腰を落として登るのがコツ。



小川谷はきれいだなあ



ザイルを出そうか？



どっちを登る？



フリクションを効かせて



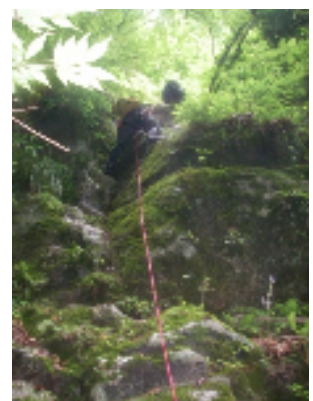
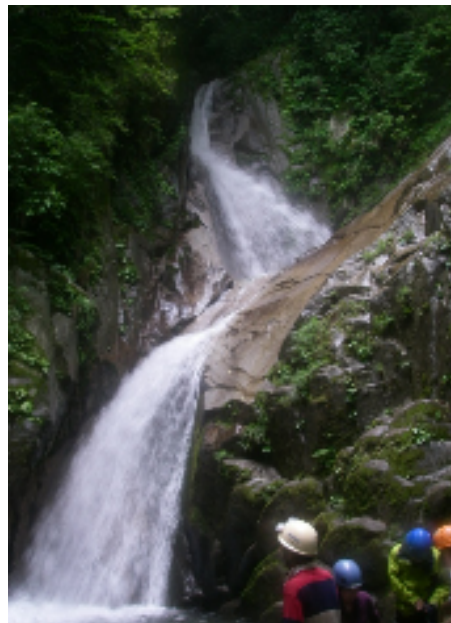
ハイライトの激流突破



小川谷紹介でよく出るシーン。
上から「水中のスタンスを探せ！」
と激を飛ばすが、聞こえない。
フリクションに慣れない初心者には難
しい。何度もドボン！
スルして巻いたら降りるのはもっと
危険。注目の的！

そして石棚の滝の威力はいつ見ても
圧倒的な迫力だ。

巻きは左の岩場を登る。手がかりは
あるがわりと垂壁に近い。ここを過
ぎればようやく先が見えてくる。



石棚の登攀

冷えた体で震えも出始め、体力も消耗気味なところに
ダメ押しのゴルジュ突破！水の中を探れば意外とスタ
ンスはあるのですが、入るのはもう嫌。もう5時間も
水と格闘していますから。でも講習者には最後の試練。
2～3名がザブンと落ちます。

ああ、やっと最後の堰堤手前の滝に到着。登攀ルートの一部がはがれて登りが厳しく
なったようで、左側の斜面を登り、7～8メートルの懸垂下降でフィニッシュである。
今日、沢デビューの堀内さんは懸垂が始めて。しかし若さと度胸とみんなの協力で無
事着地。これにて逆行講習は終了。
ベテラン組とは1時間ほど離れていたようだが、下山道入り口の川原で待っていてくれた。

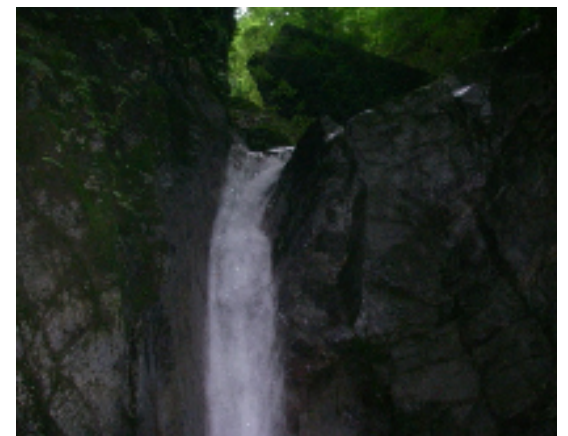
小川谷は初心者にはちょっと厳しかった。初心者講習会で学んだ基礎的なことは現場ですぐできなければ、いざというとき困るのは自分です。
沢の選択にも問題があったかもしれないが、沢はこういうもの。こうやって沢に魅了されていく人も少なくない。
【記述】上茂



石棚を越え、ほっとする一時



最後の試練



堰堤手前の滝。左を巻いて懸垂で降りる